

## 令和5年度 第8回 政策調整会議 会議録①

- 
- ◆開催日時：令和6年2月16日（金） 10：00～10：43
  - ◆開催場所：第1委員会室
  - ◆出席委員：堤副市長、波積副市長、大下教育長、西川総合政策部長、残総務部長、寺本財務部長、船橋魅力創造部長
  - ◆説明者：井上観光課長、有留観光振興担当主幹、増田観光振興担当長、竹川主任
- 

### ◆審議事項

「観光創造ビジョン・岸和田」について・・・・・・・・・・・・・・・・魅力創造部観光課⇒承認

---

### ◆審議概要

◎付議依頼書等に基づき説明

◎説明後、質疑応答

〈堤副市長〉キャッチフレーズとしては“オンリーワン”で、資源を磨いて創っていきこうという形の創造ビジョンである。岸和田市が101年目をスタートさせ、12月に策定した『文化創造ビジョン・岸和田』とセットで考え、新しい資源を文化・芸術・観光の目玉にしていきこうという、意義のあるビジョンになると考えている。文化国際課とも連携して、一体となってビジョン実現に取り組んでほしい。

計画本編27ページの岸和田市への観光入込客数データや、30ページの「外国人入込客数は、・・・回復の兆しがうかがえます」との記載にも表れているのだが、南海電鉄によると、インバウンドがコロナ禍以前を上回っているそうである。外国人観光客が次々に来る状態なのだから、色々な資源を磨く、イベントをうつ、情報発信するといったことに対して早急に取り組み、関空から大阪市内へ向かう観光客、あるいは大阪市内から関空へ帰る観光客をぜひとも呼び込んでほしい。

29ページの年代別の岸和田市への滞在者数データにおいては、10代から30代の滞在者が少ないことが目立つ。これを考えると、若者向けの情報発信、コンテンツの開発に力を入れる必要がある。例えば、本市が連携協定している関西大学では、学生さんが一生懸命TikTokやInstagramなどで有効なツールを作っている。若者から若者へという発信に力を入れていけば、20～30代の滞在者を取り込めるのではないかと思う。

35ページのデータを見ても分かるように、本市の観光は日帰りがメインとなっているので、やはり宿泊にも力を入れたい。ホテルがなくて難しい部分もあるが、民泊・古民家泊を活用してはどうか。古民家を再生・活用している人たちに材料を提供して民泊を実施してもらい、情報発信は我々が行う、という形を取るの手法としては可能ではないかと思う。関空から岸和田あたりまでのオートサービスの利益率は高いと聞いているので、ぜひとも宿泊も含めた長期滞在は考えてもらいたい。

17ページの地域資源に関して、『文化創造ビジョン』で食文化を打ち出している。岸

和田には、他にはない、意外に知られていない、自分たちも自慢になることを知らない農林水産資源がある。それらをうまく使って食文化を活用していけば、まさにオンリーワンの目玉になるのではないか。

また、本市には上村吉太郎、豊竹若太夫など、岸和田出身の芸術家・文化人もいる。例えば、杉江能楽堂や八陣の庭を使った歌舞伎や文楽を行い、新しい観光の目玉としてうまく使えば、岸和田には文化芸術の人材がいるということも訴えかけることができる。イベントについても考えてもらいたい。

〈波積副市長〉 1つは、点から線、線から面、という流れがしっかりと内容として書き込まれているか。もう1つは、ターゲットの明確化がなされているか。この2つの観点において、本ビジョンはよくできていると思う。オンリーワンや周遊の思想など、中身が広げられる内容になっており、ターゲットについてもデータに基づいている。

台湾からの観光客が多いため、それをメインに考えていると思うのだが、将来的な可能性を考えると、台湾に限らず、関空を経由してくる欧米からの観光客へのPRも必要になる。PRするためには、観光コースの作りこみをしっかりしないといけない。欧米からの観光客のリピーターを取り込むための作りこみとして、少なくとも半日、可能であれば1～2日の観光コース、それから英語のパンフレットを作る、というように、通年で定番となるような周遊コースをぜひ開発してもらいたい。だんじり祭は9～10月だが、だんじり小屋は一年中ある。そういったものと食べ物などいろんなものを組み合わせることを考えてもらいたい。外国人が好みそうなメニューを岸和田の食材で作り上げることも有効である。

国内のターゲットエリアとして東京とすることは大事。全国区のマスコミにも取り上げられる可能性が高いので、関東圏をターゲットにするのは良いと思う一方、今まで岸和田に来る方が少ない九州等西側を意識してPRしていくのも大事かと思う。データに基づいて、欠けているターゲットやメニューも念頭に置きながら、再検証の際にも同じ姿勢で取り組んでもらいたい。

〈教 育 長〉しっかりとデータに基づき、岸和田の弱みを強みに変えられるようなエッセンスが詰まっている。残念ながら現状は、京都・大阪・神戸という圧倒的な観光魅力がある都市に近いが故に、通過都市になってしまっている。1つ良いニュースがあり、山口市が世界で訪れるべき都市第3位になった。岸和田市がいかに観光で将来の明るい展望を開いていくかについて、そこにヒントがあるのではないかと思う。

多くの人を訪れる関空のお膝元、「世界に一番近い城下町」と言われたが、そういう観点からさらにこの内容を系統的に展開していくことが課題である。

もう一つの課題は、この計画を誰が推進するのかということである。市役所、観光協会にとどまらず、もっと広がっていかないといけない。例えば食の展開をするにしても事業者がついてこない、あるいはPRしようとしてもなかなかその手段がついてこないということになるので、多くの人を巻き込めるようなそういう仕組みづくりも考えていかなければならない。難しいことだが、全庁、全市をあげて取り組めるようにお願いしたい。

〈財 務 部 長〉 行政が計画を進めていくだけで、計画に書いてあることが実現することはないと思っている。事業者との協力関係を築いていくということは当然謳ってもらっているが、加えて、市民が観光客を受け入れる潜在的な意識の涵養をするような仕掛けがあれば

良いと思う。

京都、奈良、大阪、神戸といったところと勝負する必要はないと思っている。岸和田は岸和田の魅力で、量より質の観光で勝負すればよいと思う。今は、観光客が押し寄せてくると、むしろ困ってしまうことになる。観光によって知名度が上がり、イメージが上がって岸和田に振り向いてもらえる人が出てきて、若い世代が流入してきてくれるというような流れを作ってもらえたらありがたい。

34 ページの岸和田への来訪目的で、観光よりも買い物に来られた方が圧倒的に多いというデータが出ている。現在、カンカンバイサイドモールで観光案内など、観光情報を発信するようなものはあるか。

〈観光課長〉岸和田市域の観光マップには落とし込んでいますが、観光案内所のようなものはない。

〈財務部長〉岸和田駅前の観光案内所がどれだけ賑わっているのかはわからないが、こういうデータが出ているのであれば、カンカンバイサイドモールに観光案内をするような施設や仕掛けがあっても良いのではないかと思う。

また、プランとは直接的に関係ないかもしれないが、月曜日に休館する施設が多いことも何とかならないかと思う。積極的に観光客を呼び込みたいのであれば、常に行ける場所があってもいいのではないか。

本プランで観光大使については触れているか。

〈観光課長〉アンバサダーという言葉を使って記載している。市をPRしてくれる存在である。

〈財務部長〉大阪市内の在住者に、岸和田城を見て「あの城みたいな建物は何か？」と言われたことがあり、悔しい思いをした。そのような人たちを見返す仕掛けも考えてほしいと思う。

〈総合政策部長〉ちなみに、カンカンバイサイドモールには公民連携の一環で「ちきりプラザ」という情報発信コーナーを設けている。ちきりプラザを活用し、力を合わせて観光振興にも取り組めたらと思う。

〈総務部長〉本プランはデータも整理されており、メニューも用意されており、飲食店で言えば店舗ができたという雰囲気はあるのだけれども、あとは味見をしてもらうような集客するきっかけづくりがあればと思う。関空にはトランジットの観光客もおり、そういった方に日帰りで四季まつりの温泉に入ってもらうなど、岸和田にはこんなものもあるのだという、味見セットのようなバスツアーを用意するのも良いのではないか。

日本を訪れる観光客はYouTube を観ていることも多いので、インフルエンサーになるようなユーチューバーを招待し、岸和田を紹介してもらうということもYouTube の活用方法の一つである。

また、情報発信には広域連携の観点も一つ加えて欲しい。奈良の桜井から天理あたりでは、山の辺の道を歩いていたら一貫した標識があり、次にどう行けば古道をたどれるのか、というようなものがある。残念ながら大阪の熊野古道、熊野街道にはそういった案内板のようなものが一切なく、和歌山に入れば綺麗に出てくる。外国人のバックパッカーがたくさん歩いており、大阪も広域連携し整備していけば、岸和田を通る時に立ち寄ってもらえ、岸和田を知ってもらうきっかけにもなる。そういうきっかけづくりが欲しいと思う。

そして、地域資源で挙げられている食について。岸和田には「金太郎イワシ」という良い鰯もあるのだが、残念ながら岸和田の居酒屋では出てこず、全てと言っていいほ

ど東京に流れている。地元の良い食材を一定地元で確保できるような体制づくりも必要かと思う。

〈総合政策部長〉従来の見物型観光から体験型観光へのシフトが昨今の流れであるとよく言われている。

「岸和田市には〇〇がある」ではなく、「岸和田市へ行けば〇〇できる」という風にシフトして、魅力を発信していくことが大事である。

コロナ禍以前は駅前の観光案内所に、大威徳寺で紅葉を観たいという外国人がよく来ていた時期もあった。通年で楽しめる観光という意味では、「〇月にはこんなことをやっている」という観光カレンダーのような形で情報発信し、岸和田にはいつ行っても面白いという状況が作れたら良いのではないか。

食に関して、よく岸和田名物でかしみん焼きを挙げる人が多い。かしみん焼きは浜校区あたりで昔から食べられているものであるが、同校区を含む中学校区出身の自身が初めて食べたのは40歳を超えてからである。名物は発信することで作ることも可能という事例になるものであり、新しい名物を作ることも含めて食を活用してもらいたい。

また、岸和田には文化財がたくさんあり、八陣の庭は国指定名勝である。4月のお城まつりの際にはその重要文化財の中で砂紋をひく体験ができる。これは大人も喜ぶ体験であって、文化財の中に入れる上に自分の手で模様も作ることができる。それを動画撮影してSNSで発信してくれたりもするので、情報発信にも活用できる。文字どおり岸和田でしかできない体験、オンリーワンだと思うので、どんどん情報発信してもらえたらと思う。

〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり政策決定会議に諮ることとしてよいか。

【異議なし】

⇒本件、原案のとおり承認し、政策決定会議に付議する。

令和6年2月 15 日

## 政策調整会議付議依頼書

依頼者名 魅力創造部長 船橋 恵子

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

### 記

付議事項名	「観光創造ビジョン・岸和田」について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	平成 28 年度に策定した「第2次岸和田市観光振興計画」の計画期間が、令和5年度末をもって満了することに伴い、岸和田市観光振興計画推進委員会において審議し策定した「観光創造ビジョン・岸和田(案)」について、市の方針として承認を得たいため。
説明者	観光課 課長 井上 観光課 観光振興担当主幹 有留 観光課 観光振興担当長 増田 観光課 観光振興担当 藪内
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

付議会議	令和5年度 第11回会議
付議事項	「観光創造ビジョン・岸和田」について

★取組の目的

対象	市民及び観光客
どのような状態を目指す	「観光創造ビジョン・岸和田 ～新しいオンリーワンをつくる～(案)」の策定により、本市の観光振興における基本方針が設定されるとともに、近年の観光客のニーズや本市に対するニーズ等の調査結果を踏まえて、本市の強みを活かしたコンテンツの磨き上げ・情報発信の強化・観光客の受入体制の充実を図ることで、本市を訪れる観光客の増加を目指す。併せて、本計画の目標達成に向け、多様な主体が一体となってまちづくりを行うことで、都市活力の向上やシビックプライドが醸成され、岸和田市政の方針を示す『未来ビジョン・岸和田』の基本目標「にぎわいと活力を創造するまち」の実現を目指す。

★総合計画上の位置付け

5020102	基本目標	にぎわいと活力を創造するまち
↑ここにコードを入力 (コードは「未来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	観光資源が活かされている
	個別目標の方向性	① 関西国際空港とのアクセス性を活かすとともに、観光資源が充実し、観光客が過ごしやすい環境づくりを
	行政の役割	観光資源の磨き上げや新たな観光資源の創出を支援する

★現状と課題

本市は、全国的に知名度の高いだんじり祭や、岸和田城や国指定名勝の岸和田城庭園八陣の庭などの歴史文化資源を有していることに加え、海から山までの豊かな自然に恵まれており、水ナスや桃、人参「彩誉」等の農産物や、イワシやがっしよ等の府内漁獲量の約8割を誇る海産物も豊富にある。そのうえ、関西国際空港から電車で約20分、大阪府中心部からも電車で約30分という、交通アクセスにも非常に恵まれたまちである。しかし、上記のような多くの観光資源があるものの、本市を訪れる観光客数は、平成27年度の約308万人をピークに減少傾向にある。その要因として、平成28年度に策定した「第2次岸和田市観光振興計画」において、「本市の観光資源にかかる効果的な情報発信ができていないこと」「観光客の受入体制の整備が十分でないこと」が市の観光の課題として挙げられ、これらの課題解決に向けて、さまざまな観光施策を推進してきたところである。しかしながら、体験型観光の人気の高まりやSNSの進化、さらには新型コロナウイルス感染症の影響を受け、近年の観光客の動向やニーズが大きく変容していることを受け、その変化に合わせた観光の実態を正確に把握し、戦略的に観光施策を展開するための観光振興に関する方針と方向性を定めるべく、今後の観光振興の根幹となる計画の策定が必要となっている。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額					
	R3年度	R4年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
委員会運営費用						1,000			
計画策定委託料			7,000						
財源内訳	国費								
	府費			2,178					
	起債								
	一般財源			4,822			1,000		
	その他								
事業費			計	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
			1,000	0	0	1,000	0	0	

★当該事項に関連する人員増の必要性\*

人員増の必要性	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
有					
無					

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R3年度	R4年度	R5年度	目標値				
					R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
① 主要観光施設及びイベント来訪者数	人	2,023,514	2,623,242	2,650,000	2,700,000	2,750,000	2,800,000	2,870,000	2,940,000
②									

※事業費及び人員を確約するものではない。